

後部座席でもしっかりとシートベルトを

独立行政法人産業技術総合研究所
理事・中部センター所長 筒井 康賢

Tsutsui Yasukata
Vice President
Director, AIST Chubu Center
National Institute of Advanced Industrial Science and
Technology (AIST)

皆さん、タクシーや自家用車の後部座席に乗ったときにはシートベルトをしていますか？ その前に、現在の乗用車の運転席、助手席、後部座席のどこが一番安全だと思いますか？

まず、わたしには自動車の衝突安全の研究や試験の経験がないことをお断りしておかないといけません。構造や力学をずっと考えてきた機械屋のわたしには、一般道を走っている時には現在の乗用車では助手席が一番安全ではないかと考えています。

前を走っているトラックの荷物が外れて全面ガラスから飛び込んでくるような事故や対向車が中央線をはみ出して高速でぶつかってくるような事故を除くと、乗用車の助手席には後部座席にはない大きなエアバッグが着いており、さらにほとんどの人が助手席ではシートベルトを締めていることから後部座席よりはるかに安全だと考えられます。さらに極端なことになりますが、シートベルトを締めていない状態でもエアバッグが着いている助手席が後部座席より安全な場合が多いと考えています。

また、同じようにエアバッグの着いている運転席では、身体とエアバッグとの距離が短くエアバッグが身体をキャッチしやすいという有利さがありますが、重大な事故になる可能性の強い対向車との衝突では、全面（フルラップ）衝突でなく運転席側に衝突するオフセット衝突の確率が高くて運転席側のダメージが大きい。さらに運転席の前にはハンドルとハンドルのコラムがあり、足の周辺にはアクセスペダルやブレーキペダルがあって、衝突時にはそれらが運転手側に突き出してくる可能性があり、助手席より怪我をする可能性が高いように思います。このようなことから助手席が最も安全だと考えています。後部座席と前席の安全性の比較はありませんが、衝突安全試験による運転席と助手席の安全試験性の比較は、

<http://www.nasva.go.jp/assess/html2003/as105.html> がありますが、ほとんどの場合、わずかに助手席側の安全性が高そうです。

このようなことから、わたしは後部座席でもしっかりとシートベルトを締めています。タクシーでは時々留め金を座席の下に隠してあることがあり、そんなときには背もたれと下の座席の間に手をつっ込んでさげします。いつもは運転手の斜め後ろに座りますが、そこでシートベルトが締められないときには、運転手の



後ろ側に席を移動してシートベルトを締めるように試みています。

2004年4月初旬に後部座席に座っていた2人が、中央線を越えてきた対向車にぶつかるという交通事故に遭い、一人は前歯が折れ右ひじを打撲、もう一人は右腕を打撲したというニュースがありました。シートベルトを締めていなかったと決めつけてはお叱りを受けそうですが、シートベルトをしっかりと締めていたならば前歯を折る確率は少ないと思われる。

さらにシートベルトを締めることには別の効果もあるようです。最近SUVなどガラス窓の大きな車が増えて、シートベルトを締めていないと衝突事故時にガラス窓を突き破って車の外に投げ出されて亡くなったり、大けがをされることが多いそうです。

先日、産業技術総合研究所のつくば本部で研究所の公用車の後部座席に乗ったときに、運転手さんに「皆さんは後ろの座席でシートベルトを締めますか」と尋ねたところ「あなたが初めてです」という答えが返ってきました。インターネットを検索したところシートベルトの着用状況の調査結果が出ていました。一般自動車道での後部座席同乗者のシートベルト着用率は、全国平均で6.9%、愛知県は5.0%、わたしの生まれ育った高知県はさらに低く3.0%だそうです。

(<http://www.jaf.or.jp/safety/data/pdf/sb2003.pdf>) このホームページには、3列シートのミニバンの衝突時にシートベルトを締めていない後部座席の2つのダミー（衝突試験用の人形）が宙を飛び、車内で激しく衝突し前席の搭乗者にも害を与えるという恐ろしい映像もあります。http://www.jaf.or.jp/safety/rearseat/rear_03.htm

日本の産業を支えている皆様、後部座席でもしっかりとシートベルトを締めましょう。今日からご家族も必ず締めるようにしましょう。不慮の事故にあっても皆様やご家族が無事でいられることが、結局はさらなる日本の産業の発展につながります。重要なリスク管理の一つです。

(この原稿を書き上げた後の2004年4月29日、NHKのニュース10でJAFの映像を中心にした報道がありました)

1977年東京大学大学院工学系研究科修了、工学博士。同年通商産業省工業技術院機械技術研究所入所、蓄エネルギー用フライホイールの研究、発電用風車の研究、セラミックガスタービンの研究などに従事。

1995年同所企画室長、1997年同所首席研究官、1998年同所エネルギー部長、2000年同所次長、2001年独立行政法人産業技術総合研究所機械システム研究部門長、2003年同所理事・中部センター所長